

## 【報告】

# オンラインビブリオバトル実践と課題 -金沢学院大学図書館の事例-

中川 恵理子\*

### 抄 録

金沢学院大学は、図書館イベントとして、2005年よりビブリオバトルを開催している。コロナ期の中、従来対面で実施していたビブリオバトルをオンライン形式で開催した。

本稿では、2021年10月28日に開催したオンラインビブリオバトルの実施報告を行う。また、イベント終了後、発表参加者と観覧参加者それぞれにアンケートを実施した。参加者のアンケート結果をもとに、今後のオンラインビブリオバトルの運用と課題について考察する。

**キーワード：**読書支援、ビブリオバトル、オンラインイベント

## 1 はじめに

コロナ期の中、様々な図書館では、オンラインでのサービスやイベントが実施されるようになった。金沢学院大学図書館においても、ビブリオバトルをオンライン形式で開催した。ビブリオバトルは、発表参加者が面白いと思った本を5分間紹介し、質疑応答の時間を経て、参加者全員の投票で一番読みたいチャンプ本とする書評ゲームである<sup>1)</sup>。

本稿では、2021年に実施したオンラインビブリオバトルの報告とともに、イベント後に行ったアンケート結果から、今後の展開と課題について考察を行う。

## 2 対面でのビブリオバトルの運用方法・実施概要

金沢学院大学図書館における対面のビブリオバトルは、ラーニングコモンズスペースで実施している(図1)。イベントの広報は、ポスターを学内に掲示するほか、SNSや学内ポータルサイト

で案内を配信している。

本の紹介をする発表参加者は、事前申し込みとし、所属学部、氏名、紹介する本の書名を記載した申込書を図書館カウンターまで提出する。観覧のみの参加者は、申し込み不要とし、当日イベント会場に来てもらう。

参加者の投票で決めるチャンプ本は、司会者が参加者の挙手を数えて決定する。イベント終了後は、参加者全員にビブリオバトルで紹介された本を掲載したブックリスト(図2)を配布している。



図1 対面でのビブリオバトルの様子

\* なかがわ えりこ(金沢学院大学基礎教育機構・図書館事務室) 〒920-1392 石川県金沢市末町10 2023年4月25日受付



図2 配布したブックリスト

### 3 オンラインビブリオバトルの運用方法

ビブリオバトルは、本の紹介後に参加者からの質疑応答の時間が設けられており、リアルタイムでのやり取りが必要となる。そのため、イベントは、オンライン会議ツールを使用したライブ配信での開催とした。オンライン会議ツールは、本学の学生や教職員が一番使い慣れているという理由からGoogle Meetを使用した<sup>2)</sup>。

イベント広報は、オンラインのみとし、作成したポスターをSNSと学内ポータルサイトで配信した。発表参加者の申し込みは、申込書をメールで送付してもらった。イベントの会議コードは、学内ポータルサイトを通して、学内全体に公開した。イベントの観覧を事前申し込み制とし、申込者のみに会議コードを送付する方法も検討したが、参加のハードルを下げるため全学への公開とした。

オンラインビブリオバトル中は、本の紹介と質

疑応答時にはカメラと音声オンとし、それ以外はオフとする運用ルールとした。チャンプ本の決定は、参加者のチャットへの書き込みを集計して行った<sup>3)</sup>。ブックリストは、イベント終了後にSNSへ投稿を行った。

### 4 アンケート結果

オンラインビブリオバトルは、2021年10月28日に実施した。参加者は、発表参加者4名、観覧のみの参加者20名の計24名であった。アンケートは、イベント終了後、発表参加者と観覧参加者にメールで送付し、回答をお願いした。

#### 4.1 発表参加者のアンケート結果

今回のビブリオバトルの発表参加者は、全員過去に高校や大学でビブリオバトルに出場経験がある学生であった。そのため、従来の対面でのビブリオバトルとオンラインビブリオバトルを比較してやりやすかった点とやりにくかった点、参加した感想を自由記述で回答してもらい、全員から回答が得られた。発表参加者の回答が表1である。

オンラインビブリオバトルのよかった点として、緊張しないで発表ができる点、やりにくかった点としては、機材の操作の難しさや発表時に相手のリアクションが見えない点があげられた。参加した感想では、他の参加者と好きな本について話し合う時間ができて嬉しかった、もっと観覧参加者と交流したかったという意見がみられた。

#### 4.2 観覧参加者のアンケート結果

観覧のみの参加者には、ビブリオバトルが初観覧かどうか、初観覧であれば参加した理由、今回のオンラインビブリオバトルに参加した感想を自由記述で質問した。観覧者20名中、17名から回答があった。

初観覧と回答した学生は、17名中9名であり、初観覧者が多い結果となった。初参加の理由は、全員オンライン開催による参加のしやすさをあげ

表1 発表参加者のオンラインビブリオバトル感想

やりやすかった点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 機材の準備等を除けば特に通常と変わらなかった。</li> <li>・ 直接人の顔が見える状態で発表をしなかった分、あまり緊張はしなかった。</li> <li>・ 観客の顔が見えなかったため、いつもより緊張しなかった。</li> <li>・ 毎回発表の場に立つと膝が震えるので、緊張が緩和されたという意味ではとてもよかった。</li> </ul>
やりにくかった点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 準備不足で、機材トラブルがあり、発表が手間取ってしまった。</li> <li>・ 人がいない分緊張はしないが、反応が分からないと発表するのが難しい。</li> <li>・ 観覧者の反応が見えないため、どこに興味を持っているか分からなかった。</li> <li>・ 観覧者の顔が見えないため、ライブ感があまりなかった。</li> </ul>
参加した感想	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分と同じジャンルの本を好きな人と知り合うことができ嬉しかった。</li> <li>・ ビブリオバトルは、イベント終了後の発表者や観覧者が自由に作品について話す時間が好きなので、やっぱり見ている人にも来てほしい。</li> <li>・ オンラインにも一長一短があるなど感じた。緊張はするが、観客の反応が見られると楽しい。</li> <li>・ 他の発表参加者のプレゼンには学ぶところが多くあり、参加してよかった。</li> <li>・ 同じ学部の後輩と知り合うことが出来てよかった。紹介している本に専攻の学びが出ているので、嬉しく思った。</li> </ul>

表2 観覧参加者オンラインビブリオバトル感想（一部抜粋）

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 質問タイム以外でリアクションする機会がなかったので、盛り上がっている姿を発表者にみせられなかったのが残念だった。</li> <li>・ オンラインだと、遅刻してもイベントの途中から観覧しやすく、参加しやすかった。</li> <li>・ 発表者への質問のしやすさと観覧者側の反応を伝えることを考えると対面の方が優れていると感じた。</li> <li>・ 他の発表者や参加者の顔が見えないことで、集中してイベントに参加することができた。</li> <li>・ オンラインでの観覧は、音量が調整できるので、大変聞きやすかった。</li> <li>・ 画面から本当に本が好きだという気持ちが伝わった。オンラインでも熱意が伝わったが、ぜひ次回は対面で見たいと思った。</li> <li>・ オンラインだったので、対面よりも参加しやすく、楽しむことができた。</li> <li>・ 初観覧だったが、身近な本の紹介が多く、出場した方々の「この本を読んで欲しい！」という熱意が伝わってくるよい大会だった。観覧してとても楽しかった。</li> <li>・ 発表参加者全員が、自由に本を紹介していたため、色々なジャンルの本を知ることができた。</li> <li>・ 自分とは違う学部の学生の発表を聞いてよかった。このような形で他学部と交流する機会があったことがよかった。</li> <li>・ 紹介される本だけではなく、発表者がどんな人かということも感じ取れるのが面白いと思う。</li> </ul>
---

た。

観覧参加者のオンラインビブリオバトルの感想を一部抜粋し、まとめたものが表2である。イベントに参加して楽しかった、オンラインではリアクションを見せにくかった、次回は対面開催してほしい、オンラインの方が参加しやすいなどの様々な意見があった。

## 5 今後の展開と課題

発表参加者の感想は、他の参加者と交流ができてよかった、嬉しかったという意見が多かった。今回のオンラインビブリオバトル開催日は、学生

の間引き登校が実施されており、発表参加者4名中、2名は対面授業がなく登校する必要はなかった。登校の必要のない学生2名には、自宅からの発表か、発表参加者用に図書館が用意したスペースで発表するか選択させたところ、2名ともビブリオバトルのために登校することを選んだ。他の発表参加者と実際に会って話したいというのが登校する理由であった。

観覧参加者からの感想にも、リアクションを発表者に見せたい、他学部と交流する機会があってよかったなどの意見があった。参加者は、ビブリオバトルを単なる本の紹介イベントではなく、本を介した交流の場として捉えているのである。

毎回、対面のビブリオバトルでは、参加者である学生や教職員が声をかけあい、言葉を交わす時間が自然と存在していた。しかし、オンライン開催では、参加者たちが自然とコミュニケーションを取ることは難しい。ビブリオバトルが交流の場としての役割を果たすため、イベント終了後に参加者同士が自由に会話できる時間を用意することが必要である。

オンライン開催によるコミュニケーションの問題は、他にもみられた。今回、発表参加者からは、相手のリアクションが見えないと発表しにくい、観覧参加者からの感想から、リアクションを見せたいという意見が多かった。次回からイベントでは、原則カメラはオンとし、お互いのリアクションが見えるような運用とする。

オンライン開催による大きなメリットとしては、参加者の増加があった。ビブリオバトルは、2015年より毎年実施しているが、回を重ねるごとに目新しさがなくなり参加者が減少していた。好きな場所から、気軽に参加できるオンラインイベントの強みが発揮されたといえる。

参加者のアンケートからは、対面、オンラインそれぞれの開催方式を望む意見があった。異なるニーズの参加者を取り込むため、今後のビブリオバトルは、オンラインでの運用方法を工夫しながら対面と配信を同時に行うハイブリッド型での実施を検討したい。

## 6 おわりに

本稿では、オンラインビブリオバトルの実施報告と今後の課題について述べた。2022年度もビブリオバトルを実施したが、学生全員の登校自粛期間に開催となったため、オンラインのみでの実施となった。その際、イベント終了後に参加者の交流の時間を設けたところ好評であった。

現在、コロナ期の終わりが見え始めている。今後、どのような形式でサービスやイベントを実施するのが適切なのか、選択が必要となってくるであろう。今回のアンケート結果を参考にし、開催するイベントの特性を見極めて、開催方法の検討を行いたい。

### [注]

1. ビブリオバトル普及委員会. “公式ルール”. 知的書評合戦ビブリオバトル公式サイト. <https://www.bibliobattle.jp/rules>. (参照 2023-04-20)
2. 本学では、遠隔授業や面談において、Google Meetの使用が推奨されており、全ての学生が使いこなせる状態であった。
3. イベント開催時にはGoogle Meetに投票機能がなかったため、チャットの書き込みを数えての集計とした。現在のGoogle Meetには挙手機能がついている。

---

## Practice and Problem of Online Bibliobattle: Case Study of Kanazawa Gakuin University

Eriko NAKAGAWA

Kanazawa Gakuin University Library,  
10 Sue-machi, Kanazawa, Ishikawa 920-1392 Japan

**Keywords:** Reading support, Bibliobattle, Online event

---